

与論島の淡水産甲殻類について

鈴木廣志¹・龍野勝志²・竹 盛窪³

¹ 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

² 〒 891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 32-1 与論町役場総務企画課

³ 〒 891-9301 鹿児島県大島郡与論町古里 1283

■ はじめに

南西諸島の中央部に位置する与論島は隆起礁原の島で、表面水系もほとんどなく、湧水域もあまり知られていない島である。そのため、淡水域の生物相、特に十脚甲殻類についてはほとんど研究されていなかった。しかしながら、本島南東部に位置するインジャゴの湧水においてシマチスジノリ *Thorea gaudichaudii* C. Agardh の生育が確認される(洲澤, 他, 2010) など, 近年, 本島湧水域の生物相に注目が示されるようになった。

著者らは, 2011 年 2 月に与論島全島の湧水域を対象とした甲殻類生息調査を予備的に実施し, 鹿児島県版レッドデータブック(鹿児島県, 2003)で絶滅危惧 II 類, 環境省レッドデータブック(環境省, 2006)で準絶滅危惧種 (NT) に指定されているサキシマヌマエビ *Caridina sakishimensis* Fujino & Shokita を含む淡水産甲殻類の生息を確認したので, ここにその概略を報告する。

■ 材料と方法

調査は, 2011 年 2 月 26 日に与論島の幹線道路脇の水溜り, 根津栄, インジャゴ, 前浜, ウマンコ, シゴーの 6 地点の陸水域で行った。

採集には, 間口 25 cm, 目合い 1 mm のタモ網を用い, 石の下や裏側, コンクリートの壁面, 植

物の根や水草内を中心に採集した。採集したエビ類は一部を種の同定のために持ち帰り, そのほかは観察後放流した。

■ 結果と考察

今回は, 予備的に調査したので, 生息量とサイズ組成については正確な情報を得ていない。しかしながら, 今後の調査に対する情報として量的な概略も可能な限り記すこととした。

1. 幹線道路脇の水溜り

本地点は, 図 1 にも見られるように雨の少ないときは比較的流れの緩やかな状態を呈している。本地点において, 今回大型十脚甲殻類は採集されなかったが, ヨコエビ類と等脚類が 1-2 個体採集された。

2. 根津栄の湧水域

本地点では, トゲナシヌマエビ *Caridina typus* H. Milne Edwards が比較的多く採集された。今回の調査で採集された個体中, 最大サイズの個体(おそらくメスと思われる)が多く出現した。



図 1. 幹線道路脇沿いの水溜り。

Suzuki, H., K. Tatsuno and M. Take. 2011. On the freshwater crustacean decapods in Yoron Island, Kagoshima Prefecture. *Nature of Kagoshima* 37: 63-65.

✉ HS: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: suzuki@fish.kagoshima-u.ac.jp).



図2. 採集調査を行ったインジャゴにて。



図3. インジャゴで採集されたヌマエビ類。



図4. 前浜の汽水域（左）と道を隔てた上流部（右）。

3. インジャゴの湧水域（図2）

本地点では、比較的多数のトゲナシヌマエビ、およびサキシマヌマエビ *Caridina sakishimensis* Fujino & Shokita が2個体採集された。また、少数ではあるが、テナガエビ科のエビ類が生息していた。トゲナシヌマエビは図3に見られるように中小型の個体が主に生息していた。



図5. シゴの遠景（上）および人口のプール（下）。下図では奥に天然のプールがある。

4. 前浜

前浜は、インジャゴなどの下流部に位置し、唯一と言っていい表面水系の河口域である。ただ、今回調査に行ったときには完全に海と繋がることはなく、海側で伏流水となっていた（図4左）。また、海岸道路を挟んだ上流側は、3面側溝になっている（図4右）。

本地点では、トゲナシヌマエビが1個体確認できたが、上流部の3面側溝については採集自体行わなかった。

3面側溝の上流には溜池があるため、その上流

部に位置する根津栄やインジャゴのトゲナシマエビの生息に関して、どのような生活史がこの溜池以降の下流汽水域で展開されているかは、とても興味深いところである。今後の研究に期待したい。

5. ウマンコ（与論小学校の南側）の湧水

本地点でもトゲナシマエビが比較的多数採集された。そのサイズは最大サイズには及ばず、中型が多く、小型の個体は少ない印象であった。

6. シゴ

本地点は、海岸に面した人工の池で、直ぐ山側には天然の小さなプールがある（図5）。

ここには多くのトゲナシマエビ、テナガエビ類が採集され、かつ目視された。ただ、そのサイズは他の地点よりはるかに小さく、サイズ組成の季節変化からその生活史を推察する生態学的研究が急務と考えられた。

今回の予備調査では、表面水系の非常に少ない与論島においても陸水産甲殻類のうち、テナガエビ類とトゲナシマエビおよびサキシマエビが生息していることが明らかになった。

特に湧水部においてトゲナシマエビとサキシマエビの生息が確認されたことは、ヌマエビ類の生活史研究や生態学的研究にとって重要な情報と考えられる。ただ、これら湧水部は住民にとっても神聖な場所であるので、調査は前浜やシゴなど下流部で継続して行う必要があると思われる。

■ 謝辞

本調査に際し、貴重な情報と機会を与えてくださった与論町役場に深く感謝する。

■ 引用文献

- 鹿児島県環境生活部環境保護課（編），2003．鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物—動物編，642 pp. [本文中では鹿児島県(2003)として引用]
- 環境省自然環境局野生生物課編，2006．改訂．日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—7クモ形類．甲殻類等，財団法人自然環境研究センター，86 pp. [本文中では環境省(2006)として引用]
- 諸喜田茂充，1975．琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について—I，琉球大学理工学部紀要，18: 115–136.
- 諸喜田茂充，1979．琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について—II，琉球大学理工学部紀要，28: 193–278.
- Shokita, S. and S. Nishijima, 1976. Faunal list of inland-water malacostraca of Amami group, the Ryukyu Islands. *Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands*, 2: 31–38.
- 洲澤多美枝，洲澤 謙，中島 淳，竹 盛隆，熊野 茂，2010．鹿児島県与論島初記録のシマチスジノリ *Thorea gaudichaudii* C. Agardh. 藻類，58: 141–143.
- 鈴木廣志，佐藤正典，1994．かごしま自然ガイド 淡水産のエビとカニ．西日本新聞社，福岡，137 pp.
- Suzuki, H., N. Tanigawa, T. Nagatomo, and E. Tsuda, 1993. Distribution of freshwater caridean shrimps and prawns (Atyidae and Palaemonidae) from southern Kyushu and adjacent islands, Kagoshima Prefecture, Japan. *Crustacean Research*, 22: 55–64.